

2020.06/07

神戸文化支援基金は、市民の志で芸術文化活動を支えることによって、わがまち神戸・兵庫に豊かな文化の土壌を築いていこうという仕組みです。
皆様からの寄付をもとにアーティストたちを支援し、未来へつなげる活動を応援しています。

神戸文化支援基金から「緊急支援助成実施」のお知らせ

神戸文化支援基金のホームページ <http://kobushi-kikin.com/>

2020年6/7月 蝙蝠日記



緊急支援助成にあたって考えたこと、どう取り組んだか

あらゆる芸術文化活動が休止に追い込まれ、先行きも見通せなくなっていく4月。
もともと地域に根差し経営基盤が強い団体や拠点の存続を心配し、出来ることは何かと自問を繰り返す日々。
まだ政府、自治体からの支援策など何も発表されぬままに休止・中止。先が見えませんでした。

私が「緊急支援助成」の趣旨と仕組みについて財団の役員の皆さんに諮ったのが4月6日。

政府が緊急事態宣言を出したのが4月7日。

緊急事態宣言へと向かう、緊迫した状況のなかで、するとしても「その規模は」「ありかたは」と心惑いました。

私たちは公益財団の認可を受けていますから厳密に定款や規則に則って運用されねばならない、ということも大きな課題でした。
「いつも通り淡々と」いや、「こんなときこそ」など議論を重ね、助成の仕組みを発表したのが4月16日でした。

緊急支援助成の規模としては1000万円。財団の全役員16名が関り、兵庫県下を6地区に分け、それぞれ2名のノミネータが担当し深掘りするように調査し、本部には6名が属し、全員で審査をしていきました。

これを三段階に分けて「志縁」を決めて行きました。第1回4月25日、第2回5月9日、第3回5月23日とノミネートし、それぞれの1週間後に決定していきます。第1回で23件、第2回で23件、第3回で7件。合計53件 総額930万円。

選ぶことは選ばぬこと。辛い作業でもあり、選考委員全員が悩み抜きました。

私たちは何気なく「支援」という言葉を遣いました。「支える」「援ける」。でもそれは違うのではないか。

私たちが頂いている「ご寄付」そのものが「志」と「ご縁」によるものなのです。

そして、今回、選ばれて助成を受けられる皆さまには私たちの申し出を「応じる」「諾す」すなわち「応諾」していただくこととしました。

アップスタンディングな心

1989年、私は生死を分かち脳の手術を受けた。その時、心配され励ましてくださったのが亀井純子さん。その9か月後に亀井さんが40才で亡くなられた。それから30年。亀井さんに続く「冠名基金」の皆さんや多くの「志縁者」が紡ぎだしてきた物語。すべて、そっと差し出されたもの。

予期せぬコロナ禍に囲いてまれ立ちすくむ文化。今に留まらず繰り返し襲われるという。

コレラ、ペスト、スペイン風邪など昔話としか思っていなかったパンデミックに直面する今。

「目の前に苦しんでいる人間がいるとき、治療するほかないじゃないか」。大江健三郎さんが「広島―1963年夏」の取材で、重藤文夫の言葉として書き、その姿を見て、自分がやっていかなければいけないこと、やってはいけないことがよくわかった。

人に償うということは相手のためではなくて、

自分の心を清めるために、あるいは自分のこのころのためにそれをするのではないのでしょうか。

どういう心にかというと、アップスタンディング（自分の背骨で立つ）なところになるためです。

大江さんの1995年1月号「世界」（岩波書店）の特別対談から

特別寄稿 パンデミックの時代に

スピード支援に脱帽

服部 孝司（公財）神戸市民文化振興財団理事長

災害は社会の構造をよりくっきり浮かび上がらせるという。今回の新型コロナウイルスも海外の惨状を見ると感染地域にしても死者数にしても貧富の差、人種の差が如実に表れている。日本ではどうか。緊急事態宣言が解除され、少しずつ店は開き始めているが、文化・芸術分野は“3密”防止の制約で、活動を再開しても、赤字を覚悟するしかない。やっぱり文化芸術はこの国では自粛すべき「歌舞音曲」であり、アクセサリー扱いなのか。国を挙げて本気で守ろうという熱意はおよそ感じられない。無観客でのネット配信などが評判になっているが、いつまで持ち出しの自己犠牲を続けるというのだろう。

こんな憤りが胸を突き上げているときに（公財）神戸文化支援基金が緊急支援助成に乗り出し、5月中に対象を決定した。例年の支援を即座に切り替えた。そのスピードに脱帽する。国や地方公共団体の補助は手続きが面倒で、いつ支給されるかわからない。困窮する施設や団体は今が一番つらい時なのだ。だから、同基金は公募ではなく兵庫県の文化事情に精通する選考委員が助成対象をピックアップした。その選抜にはこの時を何としても生き抜き、あすの文化を牽引してほしいとの熱い思いが込められている。苦しい状況からすれば満足すべき金額とは言えまいが、まさに「社会の生命維持装置」への糧であり、公に一切頼らず文化芸術を守り抜こうと振りかざす支援の“こぶし”である。

緊急支援助成の仕組

(1) 趣旨

この度のコロナウイルスによるパンデミックが身近なものとして私たちを囲い込んでいます。今回はコロナ被害そのものは間もなく終息するにしても、様々に露呈した課題は長く地域社会としても癒すことは簡単ではありません。
地域（兵庫県下）で活動される皆さまに総額 1000 万円の緊急支援助成を実施することといたします。
財団の総力を挙げて県下の状況を調査し、三段階に分けて順次、支援金をお届けします。

(2) 助成対象

コロナウイルスの蔓延により閉鎖を余儀なくされるなど現在困窮を極めている文化拠点
1）小劇場・小映画館・小拠点
：自治体・大手資本関係は除く
2）劇団・楽団・プロジェクト
：発表の機会を失い組織の維持困難な団体
3）地域の芸術・文化を支援する団体・NPO・協会など
ただし、地域で5年以上、優れた活動をされており、その活動が記録として外部に公表されていること（HPでも可）

(3) 助成総金額

総金額を 1000 万円とし 1 件当たり 10 ～ 20 万円とする。

(4) 選考方法

公募は行わず、選考委員によるノミネート方式とする。
当財団の役員全員(13名)とゲスト審査員(3名)が選考にあたる。
兵庫県を 6 地域に分けて、その地域に詳しい選考委員各 2 名が該当地域を担当し、討議してノミネートする。
その後、本部で地域全体・分野全体を総括し決定する。
選考は3回に分けて決定する(2020年4月～5月の概ね1ヶ月)。

(5) 財源

今年度の KOBE ART AWARD (KAA) の大賞・優秀賞・地域貢献賞を見送り、今年度より新たに設けたプロジェクト賞を、KAA 予算 200 万円のところ、特例措置とし 1000 万円に増額して実施することとする。

事務運営メンバーより

緊急支援助成のはじまり

4 月のはじめ頃だったと思う。コロナ禍で文化活動が休止される中、島田理事長がこのままでは大変なことになる、と財団の理念に照らしても、なにかしなくてはと『緊急支援助成1000万円』の提起をされ、私には『運営上なにか問題があるか』というので、『KAA 選考委員会規程』の改訂をしないといけないねとお伝えし、すぐにその改定案の策定にかり、未経験の『書面決議』をどうすればいいのか調べ、何とか『KAA 緊急支援助成』を亀井純子さんの命日でもある 5 月 28 日には完了させることができたので『ホット』した。

業務執行理事 川本昭男

(注) 財団の二つの事業 芸術文化活動助成と KAA (Kobe Art Award)

悩み、葛藤を抱えながらも

果てしない緊迫感の中、事務局も入れると総勢 20 名のメールと電話での会議が続きました。しばらく様子をみたほうがいいのでは？いや、今やらないと意味が無いじゃないか、公募なのか？ではどう選べばいいのか、選べないではないか…この初めての試みに、私たちはある意味『密』になることで、私たちにできるだけのことはできたのではないか、と思っています。そう思えるのは、支援先のみなさまからのお声や、この支援を知って新たにご寄付くださった方々の存在が励みになったからです。ありがとうございました。
この循環を肌で感じる事ができたプロジェクトでした。感謝。
事務局 島田容子

この度の緊急支援助成、初めは不安もありました。幼児と自宅に籠る生活の中、私に何ができるのか。ところが助成先が決まり、みなさんから続々とお返事が届き「今メール見ました！感動しました。嬉しくて涙が出ました。」とお電話をいただき、私までウルウル…。ささやかながら私にもできることがあるんだ。事務局仲間と共にこれからも頑張ろう。そんな 2 ヶ月でした。

事務局長 中井明子

支援（志縁）を応諾されたみなさまの声

——助成決定をお知らせした際にいただいたお返事より抜粋

嬉しいご連絡をいただき、本当に涙が出て止まりませんでした。当館は私が文化財として認識されないで消えようとしている子供や女性に関わる文化遺産を収集し、後世に遺したいとの使命感から 1974 年に開館した私立博物館です。
現在まで文化遺産を守るという信念をもち、個人経営でやってきました。
その後、文科省の博物館相当施設にも認定されたのですが、国や自治体からの公的支援はなく、入館者の大幅な減少で、本来なら閉館になるところ、30 年ほど前から復興に取り組んできた女性の伝統手芸「ちりめん細工」に関わる材料の通販事業の収入に支えられ、何とか現在までやってこれたのです。
しかし、この度の思いがけない事態にどうすべくもなく、思い悩む日が続いていました。
6 月 1 日から開館予定ですが、おそらく来館者は昨年と比べて大きく減少すると思います。
そんなことで思い悩む日が続いていたところ、貴法人からの思いがけない嬉しいご連絡に喜んでいる次第です。
何とかこの苦境を乗り越え、当館が所蔵する文化遺産を社会の財産として後世に遺せるよう努力したいと考えています。
本当にありがとうございました。

日本玩具博物館

この度は、『志縁』金のご連絡を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。
ローゼンビートにいただいたメールは、その瞬間にスタッフ各自のパソコンに転送され、2 分後には LINE 上のスタッフミーティング用のグループに喜びのスタンプやメッセージが溢れました。音楽を通じて心豊かな時間をお届けしたい、音楽のある幸せな空間を創造したいと活動してまいりました私たちですが、それが叶わない状況の中、励ましてくださったのは 47 年の歴史の中で繋がってきたたくさんのアーティストの皆さん、生徒の皆さん、お客様方です。その方々がローゼンビートを必要としてくださっていることが、私たちの支えでした。
そこへ今朝、貴団体様からのメールが届いたのです。私たちの活動を知ってくださっている、見てくださっている、存続を望んでくださっている！今の日本の社会の中では、まだまだご理解いただけないことも多い私たちの仕事です。いただいたメールを、皆、何度も読み返し、恥ずかしながら涙が流れました。
選んでいただきましたことへの感謝の気持ちを今後の活動への力として、これからまたゆまず、誇りをもって歩んでいきたいと存じます。

NPO 法人ローゼンビート

この困難な折に、思いもかけずご支援のお申し出をいただき、大変ありがたく存じます。
3 月に予定しておりました東京での公演も取り止め、その他の公演も秋以降に変更したものの、この先、どうしたものかと思案に明け暮れております。
劇団員も外部スタッフもフリーランスが多く、2 月以降は舞台関係やイベントなども中止となり収入が途絶えております。皆で支えあいながら毎日、新型コロナの感染が終息することを願うばかりです。
皆さまの「ご志縁」のお志を明日への希望として、この難局を乗り越え、今後も励んで参りたいと存じます。

劇団道化座

私共のような地方のしかもアマチュアの一文化団体に、この苦しい時期に、このような多額のご支援を助成いただきましたことは、大変ありがたく、また、とても励まされています。本当に、本当にありがとうございます。
状況を見ながら稽古を再開させて、9 月頃にはアトリエ公演を出来ればと考えています。
ささやかながら、姫路の演劇の灯を絶やさぬよう、何とか踏んばっていきたいと思っています。

劇団プロデュース・F

このような申し出の連絡を頂いただけでも、メンバーの気持ちが暖かくなりました。ありがたく支援を受けさせていただきます。
また、貴団体のホームページも改めて見させていただきました。
助成を通じて阪神淡路大震災や東日本大震災など日本や地元の苦難にあってアートがどのように関わってメンタルケアしてきたのか少し垣間見ることができました。
貴団体に寄付していただいている皆様の想いを大切に活用方法を考えていきます。

NPO 法人おおやアート村

この度は、貴会の緊急支援助成に採択いただき、誠にありがとうございます。
助成金はもちろんですが、なにより、神戸での、これまでの活動を認めていただいたことに、幹事会、事務局一同、喜び、感謝しております。
また、国が自粛要請の一方、支援が立ち遅れている状況の中（特に文化は後回し）、地域での素早い対応に頭が下がる思いです。
助成金の使い方はこれから話し合いますが、会のため、だけでなく、会員の中には、地元劇団の方々も多くおられますので、皆と一緒に、神戸の演劇文化のために何かできれば、と思います。

神戸演劇鑑賞会

本当にありがとうございます。
16 人の審査員による・・・とてもいいシステムだと個人的に思いました。申請って得手・不得手・慣れ・不慣れがあり、さらに積極的に申請作業ができない人も多いと思うのです、そんな中、「ちゃんと見てるよ」と信用できる人の目と耳を集約して助成先を一方的に選ぶ。
政府の全員に一律 10 万円とか意味がわからないし、小さな声を発せないまま（それこそ申請もできないまま）崩れるところが多いと思います。文化芸術に関しては神戸にこんなシステムがあり、嬉しく思います。

旧グッケンハイム邸

突然のご支援の お申し出、大変驚きました。
委員様により選考いただいたとのこと、地道に取り組んできたことが認められたようで、嬉しく存じます。
特定非営利活動法人がっせえアート

緊急支援助成のお知らせをいただき驚きと共に感謝の気持ちが溢れています。
様々なアーティストがネットを駆使して、パフォーマンスする姿に励まされつつ、こんな時だからこそ文化芸術の灯は消してはいけないんだと感じていたところです。
皆様のご志縁に心より感謝しつつ、このご志縁を町劇 Akashi から町と人につないでいかせていただきたいと思います。

町劇 Akashi

志縁を頂けるということで、何度もメールを読み返し、嬉しい限りです。
ガレリアアーツ & ティー（お茶をのみながら、美術や音楽を身近に、作家とふれあい、ライブでは演者の息使いが感じられる空間を）のコンセプトが全く実現できなく、ライブが中止になった音楽家の方々のライブをどうすればガレリアで再開できるのか、マスクをしていたら、お茶を飲めないし、話をしてはいけないのでは、コンセプトを否定されているようで、店の名前を変えないといけないのではないかと。
など、思案してもすぐに思考が止まってしまっていました。
そんな折に届いた貴団体からのご志縁に、涙があふれました。すこしずつ、考えながら再開していきたいとおもいます。
希望が湧いてきました。有難うございます。

ガレリア アーツ & ティー

支援（志縁）を応諾されたみなさま

映画館（4 件） 神戸映画資料館 /20 万円
豊岡劇場 /20 万円
パルシネマしんこうえん /20 万円
元町映画館 /20 万円

劇団（10 件） 劇団赤鬼 /20 万円
コトリ会議 /10 万円
劇団四紀会 /20 万円
劇団自由人会 /20 万円
清流劇場 /20 万円
劇団道化座 /20 万円
劇団どろ /20 万円
劇団プロデュース・F /20 万円
いむろなおきマイムカンパニー /10 万円
いるか HOTEL /10 万円

劇場（2 件） イカロスの森 /20 万円
NPO 法人 DANCE BOX /20 万円

ダンス・舞踊（4 件） 藤田佳代舞踊研究所 /20 万円
貞松・浜田バレエ団 /20 万円
アンサンブル・ゾネ /10 万円
民族歌舞団花こま /10 万円

音楽拠点（2 件） 特定非営利活動法人ローゼンビート /20 万円
特定非営利活動法人 新しい風かとう /20 万円

音楽楽団（6 件） アンサンブル神戸 /20 万円
里井宏次 & ザ・タロー・シンガーズ /20 万円
明石フィルハーモニー管弦楽団+ジュニアオーケストラ /20 万円
兵庫稲美青少年少女合唱団 /20 万円
なんたん吹奏楽団 /10 万円
朝来市青少年少女オーケストラ /10 万円

文化拠点（7 件） 旧グッケンハイム邸 /20 万円
アートスペースかおる /20 万円
西脇 TMO 推進室 /20 万円
神戸デザインセンター+ストレージボックス /20 万円
町劇 Akashi /20 万円
ガレリア アーツ & ティー /20 万円
近松記念館 /10 万円

古典芸能（3 件） 多可町播州歌舞伎クラブ /10 万円
夙川能舞台瓦照苑 /10 万円
上田能楽堂 /20 万円

美術拠点（4 件） C.A.P. 芸術と計画会議 /20 万円
版画工房 WERK-STATT N 組 /20 万円
プラネット EarthH /20 万円
ギャラリー 301 /10 万円

私設美術館（3 件） 日本玩具博物館 /20 万円
丹波古陶館 /20 万円
水上村 川のほとりの美術館 /10 万円

アートNPO（5 件） NPO 法人おおやアート村 /20 万円
神戸演劇鑑賞会 /20 万円
特定非営利活動法人コミュニティアートセンタープラッツ /20 万円
特定非営利活動法人がっせえアート /20 万円
兵庫県子ども文化振興協会 /20 万円

活字文化拠点（3 件） 出版・編集 苦楽堂 /20 万円
くとうてん /20 万円
風来舎 /10 万円

合計 53 件 930 万円
第 1 回選考 5 月 2 日決定 23 件 450 万円
第 2 回選考 5 月 16 日決定 23 件 390 万円
第 3 回選考 5 月 28 日決定 7 件 90 万円

* 存続を断念されたり経営母体が別にもっと困っている他の団体等への理由で、3 件が辞退されました。上記には辞退された 3 件（計 50 万円）を含みません。

ゆめゆめ 油断なさるな 心の支配

ひがのぼる（夢街道国際交流子ども館理事長）

学校に通うことを拒んで、不登校という手段を用いて自らの心身を守りたいと想っている子どもたちをメインにしたフリースクールを開設して 19 年目を迎えた。

想像を絶する冷ややかな周辺からの視線の中での呻吟・葛藤を超えて、「自分が自分であること」を貫こうと苦闘している子たちの仕草は押し並べて眩しい。

しかし彼らは、その生きざまが憲法第 13 条の「個人の尊重」や第 24 条の「家族生活における個人の尊厳と両性の平等」などがその土台にあることは知る由もない。

だが私たちは知っている。学校教育の場で「子どもの自主性や自発性を尊ぶ」こととは逆に、子どもを「教化する対象の客体」としてみることが罷り通っていることを――。

更に、2012 年に制定された「くまもと家庭教育支援条例」を皮切りに各地で同様な条例が制定されていることも周知のことだ。

加えて、改憲を唱えている人々の中から「行き過ぎた個人主義を招いた元凶は、「すべて国民は個人として尊重される」とした憲法 13 条、とりわけ家族における「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」を定め、家族を個人に解体した 24 条が問題である」という認識です。

24 条の原案を作成した「ベアテ・シロタ」さん(GHQ・民政局員)は「女性が幸せにならなければ、日本は平和にならないと思った。男女平等は、その大前提です」と、その自伝で語っています。

微視と巨視、24 条と 9 条をセットにして、戦火の中で焼け残った会社の片隅が小学校入学の私の“晴れ舞台”であった残酷さを決して忘れていない。

作家の井上ひさし流に言うならば、「記憶せよ 抗議せよ そして生き延びよ」となる。



ひが のぼる。認定 NPO 法人 夢街道国際交流子ども館 理事長。熱血教師。定年退職後、不登校のこどもたちのフリースクールを設立。「教えることは 希望をかたこと 学ぶとは 誠実を胸に刻むこと」(ルイ・アラゴンの詩) 校長通信「然える樹樹」(全 130 号)に刻まれたことば。不思議な縁で繋がれて「パンデミックの時代に」のエッセイをお願いした。

オンライン・ストア

6 月 1 日より「ギャラリー島田 オンライン・ストア」をオープンしています。
(<https://gallery-shimada.stores.jp/>)

特集第 1 弾は、絵本作家きたむらさとしさんによる「悩みのるつば」挿絵原画。作品は一点一点、きたむらさん直筆イラストの描かれたオリジナル台紙に入ってお手もとに届きます。こちらの企画、すでに変な好評をいただき、全国から多くのお客様に作品をお求めいただいております。つきましては近日、「悩みのるつば」挿絵原画の第 2 弾を公開予定です。どうぞお楽しみに。

その後もさらに、井上よう子さんや石井一男さんをはじめ、ギャラリー島田と関わりの深い作家の皆さんの選りすぐりの作品を、お手入れしやすい小品を中心に公開していく予定です。ギャラリー島田オンライン・ストアをぜひご覧ください。

ギャラリー島田の新しい試み



オンライン・ミュージアム

近日の公開を目指し「ギャラリー島田 オンライン・ミュージアム」を準備中です。これはウェブ上でギャラリー島田の作家の作品を企画展のように鑑賞いただけるというものです。

第 1 弾として、7 月の特別企画展「未来圏から！」では実際の展示と並行して、オンライン・ミュージアム上でも作品を展示します。海外から参加の作家の作品は、オンライン・ミュージアムでのみご覧いただくことができます。

今後の企画として、没後 35 年を迎える鴨居玲のユニークな資料ミュージアムを予定しています。鴨居玲のパレットや貴重な自筆原稿、豊富な画集や評伝などをご覧ください。

そしてその後も様々な作家の展覧会が続きます。

さらに、ギャラリー島田所蔵、また島田誠個人蔵の美術関連の稀少本を格安で販売予定です。

詳細はおつてギャラリー ホームページ (<http://gallery-shimada.com/>)、メールマガジンでお知らせいたします。

神戸文化支援基金 と ギャラリー島田 そして アート・サポート・センター神戸

亀井純子さんは、当時神戸にあったオランダ領事館に勤めておられ、オランダの美術や音楽を紹介する文化を担当され、島田誠はそのお手伝いをしていました。ギャラリー島田の前身である海文堂ギャラリーでのことです。亡くなられた亀井純子さんから託されたお金をもとに始まった神戸文化支援基金ですが、30 年を経て、無名と言っている市民の皆様から託されたご寄付によって、今までに 6 千万円を超える助成を行ってきました。決して先端的であつたり超一級であつたりするものへの支援を目指しているのではなく、地域に根差し頑張っている人、これからの才能を応援しています。ご寄付いただけるみなさまには、こうしたアーティストについても、基金についても、どこにもない挑戦をともにしていただければ嬉しいです。

※今回、振り込み用紙を同封させて頂いておりますが、勿論、ご自由な判断をお願いいたします。

※本基金へのご寄付は、公益財団法人への寄付として寄付金控除の対象となります。

すべて初めての暮らし

文鳥日記

はじめまして。今年の 3 月よりギャラリー島田で働いております。岡田文(おかだ ふみ)と申します。実は昨年の夏頃からインターンとして時折出ておりましたが、このたび正規のスタッフになり、初めて日記を書かせていただきます。

私は生まれ月の「文月」からとつたらしいこの名前を結構気に入っています。そこで日記名を決めるならこの字を取ろうと思い、浮かんだのが文鳥でした。こうしてみると、その白黒な外見や質素な食事に少し親近感がわくような...?(白黒の服が落ち着く、少食...)それはさておき。

私がスタッフとして毎日過ごす「ギャラリー島田」、それは予想外のスタートでした。コロナ禍で展覧会は中止や延期、作家さんやお客様にお会い出来る時間も少なくまばら。いつもとは違うギャラリーの姿があり、作品の掛かっている白い壁と向き合う時間が、どこか重たく感じられたことを覚えています。

最初の日から 3ヶ月が経とうとしていますが、ここで過ごすことで生まれる本来の日常を、私はまだ知らないのだと思います。ギャラリーにとつての「当たり前」が、いつかちゃんと私にとつての「当たり前」にもなりますよう。願いを込めつつ、私の初めての日記とさせていただきます。

ギャラリー島田

アート・サポート・センター神戸

文責 島田誠
編集 岡田文、山本貴士
林淳子、島田容子

発行人 島田誠

〒650-0003 神戸市中央区山本通 2-4-24

リランズゲート B1・1F

078-262-8058

TEL & FAX info@gallery-shimada.com

メール http://gallery-shimada.com

ホームページ http://gallery-shimada.com/blog

ブログ https://www.facebook.com/galleryshimada/

Facebook